伝説・神様より強い男

――行方市

昔、神様と人間が同じ世界に住んでいた頃、自然現象は神様の力によるもの、と皆が信じて暮らしていました。しかし、人は神様の言う通りにしなければいけませんでした。

この辺りには、「谷の神」という蛇の姿をした神様がたくさん住んでいました。村のリーダーの麻多智は、神様を恐れぬ強い男でした。

ある時、麻多智は村人に言いました。「西の沼を掘り起こして田んぼを作ろう。葦が生えているだけではもったいない。」その提案に村人たちは驚き、谷の神の祟りを恐れました。

じきに谷の神が沼のことを知って、かんかんに怒り西の沼に大勢集まって、葦を切っている人をにらみ、体が動かなくなるように次々と呪いをかけました。

今度は麻多智が、かんかんに怒りました。「谷の神め、許さないぞ！」と叫ぶと、走って家に戻り、鉄の兜、鉄の鎧、鉄の剣を身に付け、西の沼に一目散。そして大声でどなりました。「谷の神よ！俺の剣は鉄の剣だ！命が惜しけりゃ今すぐ出て行け！」

その頃は、まだ木の道具が主流で鉄は貴重品でした。谷の神は、鉄の剣では簡単に体を切られてしまうと、こぞって逃げ出しました。麻多智は、剣を振り回しながら追いかけて、山の登り口まで谷の神を押し戻しました。村人たちも鉄の鎌や鍬で必死に戦いました。麻多智と村人はすぐさま山と西の沼の間に溝を掘り、人と神の境の「標の柷」を立てました。そして山に向かって麻多智が叫びました。「いいか！ここが俺たちとお前たちの境界だ。今度邪魔をしたら許さんぞ。その代わり社を建てて祀って俺が率先して拝んでやるぞ。」

麻多智は、村人たちと西の沼を掘り起こして田んぼにしました。たくさんのお米がとれるようになり、村人たちは喜びました。谷の神もそれ以来里に降りてこなくなりました。

行方市の夜刀神社は、谷の神を祀ったものと伝えられています。

行方市は、霞ヶ浦と北浦、豊かな里山もあり、おいしい水産物と農産物に恵まれています。秋の味覚を探しに出かけてみてはいかがでしょうか。

※谷の神…やとのかみ。夜刀神ともいう。

〈参考文献〉『茨城県の民話』（日本児童文学者協会 編）

お出かけの際には、周囲の状況等に十分ご配慮いただけますようお願いいたします。

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく
ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社
本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) http://www.ibaraki-isuzu.co.jp